

12. 12. 2020  
わがまち学習講座第1回@多摩市

# 「わがまち」の 地域カルテをつくって 未来を語ろう！

MC 大杉 寛

# 本日のMC プロフィール

大杉 覚（おおすぎ さとる）

東京都立大学法学部教授

東京大学大学院修了、博士（学術）

行政学、都市行政論、地方自治論

現在、**多摩市自治推進委員会委員長**

その他に、内閣官房官民データ活用推進基本計画実行委員会オープンデータワーキンググループ構成員、（公財）特別区協議会特別区制度懇談会委員、世田谷区せたがや自治政策研究所所長など

著書に、『これからの地方自治の教科書』共著、第一法規など

# 本講座のねらいは？

## 地域カルテづくりをとおして

- ふだん暮らす地域はどんなところ？
- 未来に向けてどんな地域であってほしい？

といったことを、

- ビジョンをもって、
- 情報共有しながら、
- 対話をベースに考える

ことの大切さを体験しよう！

# 「地域カルテ」ってなに？

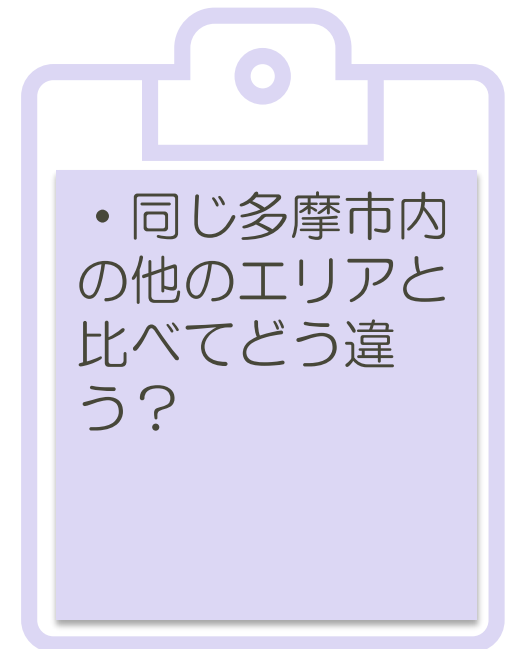
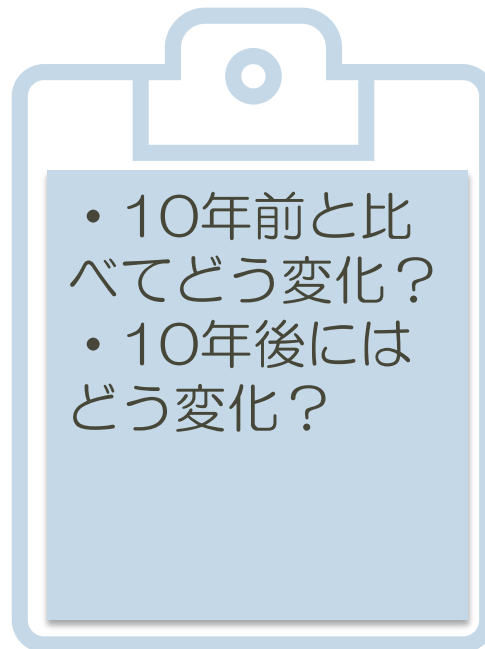
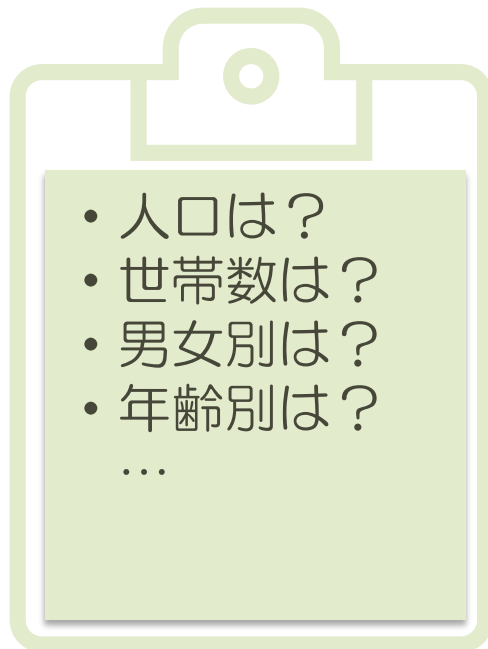
- 地域カルテとは
  - 「地域の特性を示すデータをまとめ記録したもの」
  - お医者さんのカルテ（診療記録）に由来
- 記録する内容は、
  - 地域の「**困りごと**」だけでなく、「**自慢**」についても
  - 過去・現在だけでなく、**未来**についても
- 地域カルテづくりは目的ではなく、あくまでも**手段**（ツール）

# 「地域カルテ」の「地域」って？

- 「地域」とはさまざまな範囲で考えられますが…
  - 本講座では、概ね学校区のエリアを想定
  - 多摩市「地域委員会（仮称）」構想のエリアに相当（後述）
- ただし、
  - 本講座の各グループの複数のエリアを「地域」として考えて構いません
  - 「〇〇駅周辺エリア」「〇〇川流域エリア」など皆さんが了解しやすい設定も可

# 意外と知らない?! 「わがまち」

- 住まいのあるエリア＝「わがまち」についてどれだけ知っているでしょうか？



- これら基礎データをしっかり確認するのがスタートライン！

# 「わがまち」の「自慢」と「困りごと」

「自慢」

＝「地域資源」

(ヒト、モノ、情報など)

- 「こんな有名人が出身！」
- 「美味しいお店がある」
- 「由緒ある〇〇がある」
- 「ここは絶景ポイント！」

など

「困りごと」

＝「地域課題」

- 今現に困っていること
  - 将来困りそうなこと
- など

# なぜ「地域カルテ」が必要なの？

## ① 地域社会の変化

- 超少子高齢化、人口減少社会へ
- コロナ禍での地域変容 など

## ② 全国の地域コミュニティの動向

- 都市自治体の約半数は学校区単位に協議会型住民自治組織を立ち上げ
- 地域カルテ、計画づくりが盛んに

## ③ 多摩市「地域委員会（仮称）」構想

## ④ 国の動向



# 国の動向：「公共私連携」

- 国の第32次地方制度調査会「2040年頃から逆算し顕在化する諸課題に対応するために必要な地方行政体制のあり方等に関する答申」（2020年6月26日）の主要テーマの一つが「**公共私連携**」
  - 多様な主体の連携・協働による地域社会の形成のための**プラットフォーム**の構築
  - プラットフォームは「**地域の未来予測**」を踏まえ、「公共私それぞれの視点で把握している地域の資源・課題やデータを見出し、共有した上で、目指す未来像の実現に向けた議論の場」へ など

# 多摩市「地域委員会」構想①

## 「（仮称）地域委員会構想」について 1 経緯・国の施策との関連

- 第三期自治推進委員会「コミュニティ自治推進に向けた検討報告書」（H23.6）
- 第五次多摩市総合計画  
第1期基本計画（H23～）「（仮称）地域委員会構想」の推進  
第2期基本計画（H27～）「健幸都市（スマートウェルネスシティ）・多摩の創造」  
【3つの取組の方向性のうちの1つ】  
第3期基本計画（R元～）「健幸まちづくりのさらなる推進」【計画の基盤となる考え方】  
「市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」  
【3つの重点課題のうちの1つ】

市

- 「地域共生社会」の実現（厚生労働省）  
制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が、「我が事」として参画し、人と人、人と資源が、世代や分野を超えて「丸ごと」につながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会
- 「地域運営組織」の形成（総務省）  
地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織

国

「（仮称）地域委員会構想」の実現に向けた取組みに本格的に着手

# 多摩市「地域委員会」構想②

## 「（仮称）地域委員会構想」について

## 10 将来イメージ

地域拠点・施設 コミセン、学校、図書館、児童館など

地域の中で  
「つなぐ」

大学連携による  
地域人材養成講座

地域の中で  
「掘り起こす」

地域資源  
商店、大学・高校、  
社会福祉法人、  
福祉団体、NPOなど



プラットフォーム（地域の多様な主体が参画する協議会）

地域を  
「支える」

地域担当職員・地域福祉コーディネーター  
が分野横断の行政の窓口として連絡調整

中間支援組織による  
地域委員会の運営支援

# 多摩市「地域委員会」構想③

## 想定モデルエリア

### 既存地区

一小学区  
(多摩中の大半)

東寺方小学区  
(多摩中・和田中  
の一部)

二小学区  
(和田中の大半)

### 既存・NT 混合地区

聖ヶ丘中学区  
(連光寺小・聖ヶ丘小)

東愛宕中学区  
(三小・愛和小)

### NT地区

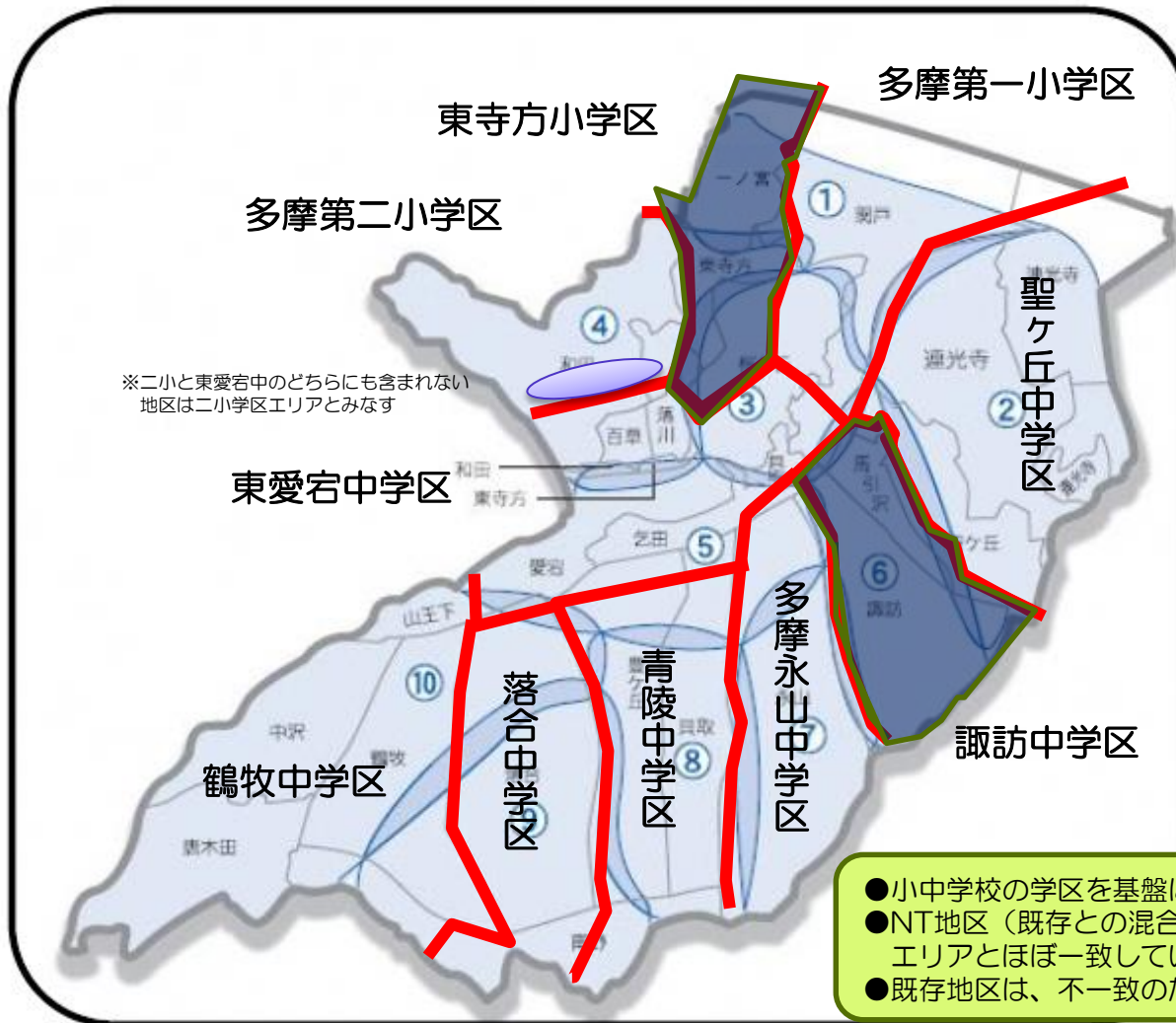
諏訪中学区  
(北諏訪小・諏訪  
小)

多摩永山中学区  
(永山小・瓜生小)

青陵中学区  
(豊ヶ丘小・貝取  
小)

落合中学区  
(東落小・西落小)

鶴牧中学区  
(南鶴小・大松台  
小)



- 小中学校の学区を基盤にエリアを設定
- NT地区（既存との混合地区）は、コミュニティエリアとほぼ一致しているために中学校の学区
- 既存地区は、不一致のため小学校の学区

# 地域カルテのねらい

- 地域カルテを作成・活用することで、
  - ① 情報を共有する
  - ② 課題発見に役立つ
  - ③ 目標やビジョンを明確にする
  - ④ 連携・交流を促す
- 上記の効果を意識して作成・活用することがポイント！

# 地域カルテ から 地域計画 へ



# 【事例】宇部市（山口県）船木校区

第145号

2019年（令和元年）6月号 特別版

## 6月号 ふなきだより 特集 船木校区 中期ビジョン（地域計画） 特別版 （4年間の実績と本年度の計画）

**背景・経緯** 地域コミュニティの目的である『安心・安全で住みよい地域社会を築く』ため、平成27年7月から、地域の重要課題を中期ビジョンに反映し、将来さらに進む人口減少・高齢化に備えて、地域力向上と地域住民の自助意識の醸成に繋がることを目指しスタートしました。本年度は中期ビジョンの最終年度となりますので、4年間の進捗状況を

◎若者を含めて地域の声を丹念に聞いている



平成28年の夏頃から、宇部市は各校区に地域計画を策定するように指導を開始しました。船木校区も、中学生以上1782名（回収率52%）のアンケートを実施し、その結果を反映して、平成27年度に策定した中期ビジョンを下記のように改訂しました。

**平成29年3月1日 全戸配布済み** 2/6

**船木校区中期ビジョン**

住民は互いに尊重し、安心安全で住みよい地域社会を築こう

**4年間の実績**

- 1 防災マップ・防災機器の整備
- 2 緊急避難場所開設マニュアルの整備・避難訓練
- 3 自治会の緊急連絡網等（各自治会）
- 4 防災計画策定
- 5 危険空き家・通学路安全対策

**令和元年主要計画**

- 1 緊急連絡網・防災マップ・対策本部組織等の見直し
- 2 土砂災害警戒区域の情報伝達網の整備・要支援者のフォロー体制の推進
- 3 「防災だより」「救命救命講習会」「防災講演会」を推進
- 4 通学路の安全対策（ふれあい運動推進委員会等）

※詳細は自主防災事業計画を参照

**1 安心・安全強化（ふれあい運動推進委員会等）** 4年間の実績

**H27.8月 全戸配布** 3/6

**船木校区防災マップ**

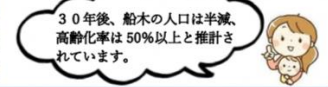
- 1 防災マップの発行・防災機器の整備を行いました。
- 2 緊急避難場所開設マニュアルを作成し、避難訓練をしました。
- 3 船木校区防災計画を策定しました。

**4 防災マップの発行・防災機器の整備**

まずは、安全避難です。

- 1 緊急連絡網の整備
- 2 安否確認名簿作成
- 3 要介護者の支援体制の整備

各自治会に策定をお願いしています。



◎振り返り（事後評価）を行なっている

第145号

2019年（令和元年）6月号 特別版

**【専門部会】支え合い会議** 4年間の実績

- 福祉委員・自治会長緊急大会
- 自治会ごとの縦やかな見守り（各自治会）
- 事業者への船木あったかネットワーク
- 有償貸付・サービス業リーダー募集
- 民生委員との連携強化
- 健康やんかドへの一本化
- 健康づくりプラン

**【メンバー】** コミュニティ・農産物産出委員会、ふれあい運動推進委員会、健康づくり推進委員会、防災対策委員会、健康づくり推進委員会、健康づくり推進委員会

**【活動】** 高齢者、若者、子育て世代、子育て世代、子育て世代

**【令和元年主要計画】**

- 1 船木あったか見守りネットワーク活動強化（事業者協賛、情報交換会・認知症サポート会）
- 2 各自治会でのゆるやかな見守り体制構築の推進（福祉交流会など活用）
- 3 健康づくりプランの推進（がん検診、特定検診の受診向上、ふれあい運動会/福祉交流会）
- 4 有償貸付サービスの推進（リーダー募集の継続）

**3 子育て支援強化** 【専門部会】子育て支援プロジェクト 4年間の実績

- 未就学児保護者へのアンケート実施
- コミュニティ行事へ要望の反映
- ふれあい運動会、どんと焼き、健康ウォーキング
- 学びの森とのコラボイベント
- 小学校行事の継続し（地域への要望対応）
- （子育て共働き世代等）とつなぐ七ヶ岡コンテストの開催（三世代交流）

**【令和元年主要計画】**

- 1 センテナストの実施（子育て共働き世代等とのふれあいと地域交流）
- 2 子ども会/PTAからの地域要望に協力する（プール監視、学校清掃作業/行事への協力/ベルマーク仕分け作業等）
- 3 学びの森とのコラボ行事の検討（定休日のワーク・学習推進等）
- 4 学校運営協議会（コミュニティスクール）事業内容確認を継続

**【スローガン】一緒に「ぶちええ船木をつくろうや」!!**

**船木活性化懇話会メンバーは、一般公募です!!**

**【専門部会】船木活性化懇話会（一般公募）** 6/6

**4 歴史ある船木にふさわしい歴史ある新規行事の創出** 4年間の実績

- 史跡「千林尼石堂」の整備（看板設置、彼岸花/ツツジ植栽）
- 手作りそば作り体験
- 伝統音楽の復活（船木小唄・音頭）
- 健康民謡教室

**【令和元年主要計画】**

- 1 史跡「千林尼石堂」の整備（ツツジ、彼岸花植栽含む）、「船木そば作り体験」を再開
- 2 新規行事「千林尼石堂ウォーク」を厚東校区とのコラボ行事として計画
- 3 センテナスト行事を支援

■平成26年に孤独死が4件発生しました。現在、各自治会にお願いして、『ゆるやかな見守り体制の構築』と事業者の協力を得て、『船木あったか見守りネットワーク33社』を地域でできる2本柱として展開しています。また、「情報交換会」や「認知症サポーター養成講座」等のイベントを開催しています。（平成28、29、30年は孤独死ゼロでした。）

■平成29年に「船木校区健康づくりプラン」を策定しました。「あったかだより」やサロン等での啓発活動により、特定検診やがん検診の受診率upをねらっています。

◎様々な主体とコラボなどにより取組みを充実させている

■地域要望に対応 子ども会やPTAの地域に対する要望に対応しています。（プール監視、学校清掃、ベルマーク仕分け作業等）



参加希望者は、船木ふれあいセンターに連絡してください。（67-1183）

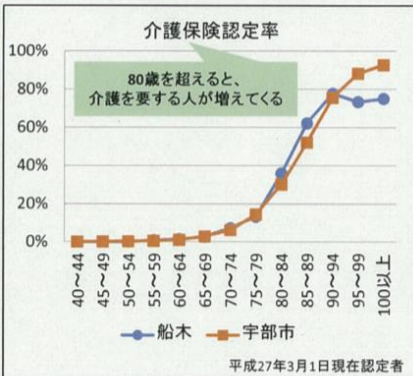
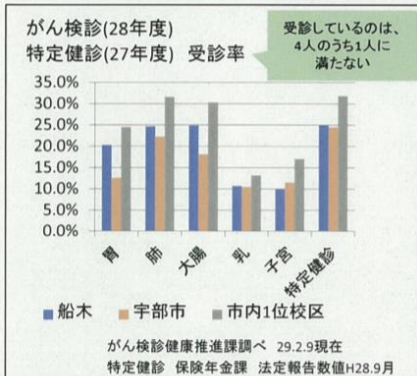
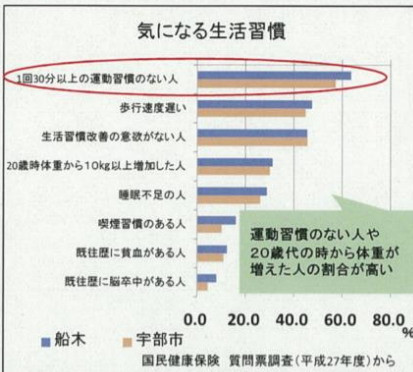
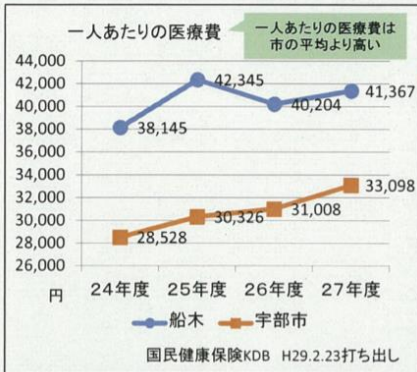
■千林尼石堂整備・船木そばづくり体験 年2回（5月・11月）千林尼石堂の整備を行っています。そば作りは、種まきから、収穫、そば打ちまで体験できます。

■千林尼ウォーク 今年度新規の行事で、厚東校区とコラボして、10月14日（体育の日）に計画しています。（募集はふなきだよりで）

■伝統・復活健康民謡教室 健康民謡教室の皆さまが、頑張って「踊りでフィットネス」活動をしています。伝統芸能である船木小唄を復活させ、H30年の船木小学校運動会を全校児童、保護者による総踊りをスタートさせました。地域の盆踊りや福祉まつり等でも活躍しています。

※中期ビジョンについてご意見等ありましたら、船木ふれあいセンターまでお寄せください。（問合せ先:67-1183）

4 資料



船木校区の認知症患者 推計値

項目	2017年(平成29年4月1日)	2025年
人口	3,742人	→ 3,031人
高齢者	1,264人	→ 1,162人
高齢化率	34.2%	→ 38.4%
(認知症予測人数)	190人	→ 174人
(認知症予備軍 予測人数)	164人	→ 151人

認知症予備軍含むと校区の約10人に1人が認知症になると考えられる

\*年齢層別5年間(2010年~2015年)の変化率を基準に推計した人口

地域の皆さんが思う 「こんな船木になつたらいいな」

- ・有帆川沿いをウォーキング・サイクリングロードとして整備し、健康増進を図っては？登山道の整備も。
- ・みんなが集う場所を設け、食事ができ、みんなで何かできること(カルチャー教室など)が開かれると親交が深まるのでは？ 気楽に話し合える場所が欲しい。
- ・若者でも高齢者でも利用できるスポーツ施設があるといい。仕事帰りにバスケットをしたい。温水プールもあるといいな。

健康に関する意見...地域計画アンケートから

# 船木校区 健康づくりプラン

平成29年12月1日

船木校区コミュニティ推進協議会

## 1 経緯

- ・船木校区中期ビジョンの一つの柱『高齢者の見守り強化』を実現するためには、今後更なる高齢化に備えた体制の基盤を作り、継続的に実践していくことが重要です。
- ・一方で、いつまでも健康に過ごすことが、活気ある地域の継続につながります。そこで、「船木校区健康づくりプラン」(平成29年度~31年度)を新たに策定し、推進体制を決め、健康寿命の延伸を目指します。

## 2 船木校区の現状

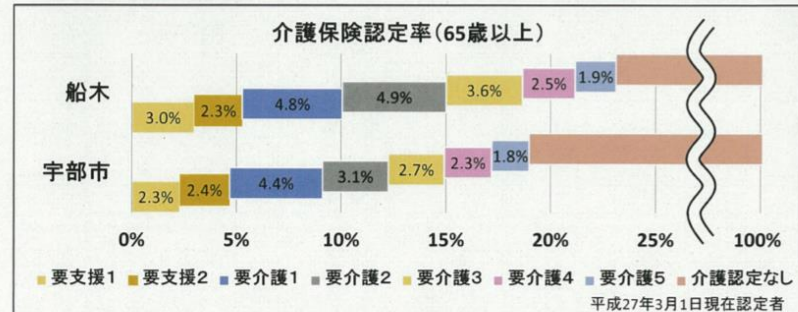
- ・30年後の人口/高齢化率推計は・・・人口は現在の1/2以下になり、高齢化率は50%を超えます。

2017年	2045年
人口 4,742人	1,608人
高齢化率 34.2%	51.5%

- ・介護保険認定率(65歳以上)は約4人に1人(船木23.1%、宇部市19.0%)と低くなっています。また、一人あたりの医療費も宇部市を大きく上回っています(4.資料参考)。
- 健康であり続けるためには、自らの健康状態に気を配ることや特定健康診査・がん検診を受診することも重要です。



- ・「健康ウォーキング」や「ふれあい運動会・球技大会」を実施していますが、高齢者でも参加しやすい企画をたて、運動する機会を増やす取組を行う必要があります。



地域活動に参加して、元気に過ごしましょう



### 3 具体的な内容

#### 取組方針

健康寿命の伸ばすためには、

- ①健康状態を確認し、健康づくりの意識づけを図ることが大切です。そのために特定健康診査やがん検診の受診率向上を啓発します。
- ②身近な健康づくりや世代間交流をととして、元気づくりをするために、ウォーキング大会やふれあい運動会などの高齢者でも参加できるように企画を見直します。

#### ■宇部市の目標■ 健康寿命の延伸

	H22年	H31年
男性	78.01歳	➡ 延伸
女性	82.92歳	

### 目標と具体的な取組

#### 特定健診・がん検診の受診率啓発活動

■目標：特定健診・がん検診の受診率向上 ⇒プラス10%～30%

受診率	平成28年度		平成31年度
	船木	宇部市	船木(目標値)
特定健診	25.1	24.5	27.6
がん検診			
胃	20.3	13.6	22.3
肺	24.7	22.8	27.2
大腸	24.9	19.1	27.4
子宮	10.0	11.3	13.0
乳	10.7	10.4	13.9

単位 %

【取組】 推進団体：地域支え合い会議

取り組み	平成29年度	平成30年度	平成31年度
船木「あったかだよ」を発行し、特定健診・がん検診の受診率向上につながる啓蒙活動	・4回/年	・内容の充実	
サロン等での啓発活動	・7箇所	・箇所数をふやす	
はつらつポイント制度の活用	・チャレンジデー ・健康ウォーキング	・対象とする活動を増やす ふれあい運動会 校区ふれあい球技大会 踊りでフィットネス活動 など	

#### 運動実践活動の充実

目標1 船木宿 健康ウォーキングの参加率向上 ⇒プラス10%

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
参加人数	182人	188人	194人	200人

【取組】 推進団体：校区コミュニティ推進協議会

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
・散策コースの実施 ・健康チェックの実施 ・校区内PRの強化	・内容の充実		

目標2 ふれあい運動会・校区ふれあい球技大会の参加率向上 ⇒プラス10%

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
参加人数	ふれあい運動会	240人	250人	260人
	ふれあい球技大会	75人	80人	85人

【取組】 推進団体：体育振興会

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
ふれあい運動会	・新競技の追加	・体育部長への呼びかけ	・競技内容見直し
ふれあい球技	・ネーミング変更 ・新種目(ふらばーるバレー)の紹介	・新種目の追加	・内容の充実

目標3 サロン等での踊りによるフィットネス活動参加人数(29年度新規) ⇒増加

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
参加人数		サロン等 (4回) 50人 老人クラブ (3回) 120人 地域行事(盆踊り) 100人	平成29年度の実績を上回る 目標値を設定する	

【取組】 推進団体：健康民踊教室

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
・サロン、老人クラブでの実施 ・地域行事での実施	・ふれあいサロンでの実施 ・小学校(運動会)での実施		・実施個所の拡大